

1. 授業の概要(ねらい)

政治史IIでは、20世紀初頭から21世紀初頭までの、イギリス、フランス、ドイツといった西ヨーロッパを中心としたヨーロッパの政治史を扱う。

ヨーロッパは、議会制民主主義や福祉国家といった現在の世界であたりまえになっているしくみや、自由主義、社会主義、あるいは全体主義といった政治潮流の生地であり、また欧州統合という政治的実験の舞台でもある。それらが、いかなる背景からいかにして生成し、どのように変化したかを知ることは、現代の日本に生きる我々にとっても大きな意義のあることであろう。授業では、歴史的な諸問題を各国の政治状況と対応させつつ取り上げ、それらが、現在の世界の政治や社会をいかに成り立たせているかを考察していく予定である。

2. 授業の到達目標

- ①近現代のヨーロッパの政治史に関する、基礎的な知識を獲得する。
- ②政治史を学ぶことを通じて、現在の世界の政治や社会のあり方を理解できるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

2回のテストで、基礎的な知識とその定着を判定する。第1回テストと第2回テストの合計点(90%)、授業への参加姿勢及び貢献度(10%)を総合して評価する。2回のテストは必ず受験する必要がある。やむを得ない事情で第1回テストを欠席する(欠席した)学生は、速やかに申し出て教員の指示を受けなくてはならない。

学期末の第2回テストのみを受験しても合格点には達しないので、就職活動中の学生は特に注意すること。

4. 教科書・参考文献

参考文献

各テーマに即したキーワード、年表をまとめた簡単な資料を配布する。

5. 準備学修の内容

授業後には、復習として自分のノートを読み返し、さらに配布資料等を参考にしてノートを整理する。授業前には、ノートと配布資料を参考にして前回授業のポイントを確認する。

日常的に新聞を読む。また多くの本を読むことにより、自らの知の世界を広げるように努める。

6. その他履修上の注意事項

社会への関心を持ち、自らの問題意識を持って授業に参加することを望む。

配布資料はキーワード、年表のみの記載であるので、毎回出席してノートをとることが重要であることを理解して受講していただきたい。中間テストの実施回は授業の進行によって変動することがある。中間テストの実施回、テスト欠席の場合の措置、その他の連絡事項については、授業内に発表するので、必ず出席して確認すること。

7. 授業内容

- 【第1回】 授業ガイダンス、第一次世界大戦とその遺産1—第一次世界大戦の衝撃
- 【第2回】 第一次世界大戦とその遺産2—戦後体制の出發
- 【第3回】 第一次世界大戦とその遺産3—相対的安定期
- 【第4回】 第一次世界大戦とその遺産4—ファシズムの出現
- 【第5回】 経済危機と政治1—経済危機への対応
- 【第6回】 経済危機と政治2—ドイツ政治とナチズム
- 【第7回】 経済危機と政治3—第二次世界大戦への道
- 【第8回】 第二次世界大戦の戦後体制の確立1—第二次世界大戦の終結、第1回テスト(予定)
- 【第9回】 第二次世界大戦の戦後体制の確立2—第二次世界大戦が残したもの
- 【第10回】 第二次世界大戦の戦後体制の確立3—戦後のヨーロッパ諸国
- 【第11回】 第二次世界大戦の戦後体制の確立4—福祉国家の建設
- 【第12回】 欧州統合の出發
- 【第13回】 戦後体制の危機と再編1—「戦後」からの脱却
- 【第14回】 戦後体制の危機と再編2—高度経済成長の終焉
- 【第15回】 グローバル化と統合の進展、第2回テスト(予定)